

第 245 回 昭和の森自然観察会

木 の 花

山下美佐子（東金市）

日 時：2012年5月13日（日）13～15時 天気：晴れ

参加者：大人18名 指導員：15名

担当指導員：佐野由輝 佐藤一枝 山下美佐子

ホオノキ（雄期）

五月晴れの中、「木の花」観察会は、大人ばかりの参加者で落ち着いた和やかな雰囲気で開催されました。花というと美しい花を連想しますが、これが花？と言いたくなるような花もあります。木の花の観察は、最初遠くから木に花が咲いていることを確認して、その木の下へ行きます。大抵下に花弁が落ちているので、それを拾い、虫眼鏡でじっくりと観て、木の花の子孫を残す戦略を考えました。観察内容は、



絵：佐藤一枝さん

- ① 高いところに咲いていて観ることのできないホオノキの花は、雄期の花を用意しました。参加者に雌期の花の写真を観てもらったり、においを嗅いだりしてもらいました。つぼみが開いた当日は雌、いったん閉じて再び開いた時は雄と性を変えたり、同じ木の花で咲く時期を変えたりして、同花受粉、同木受粉を防ぐ戦略をしていること、蜜を持たず、香りを出して虫を誘って花粉を運んでもらう戦略をしていることを考えてもらいました。
- ② シラカシの花は、しっかりと虫メガネで観て、おしべだけしかない雄花、めしべだけの雌花を同じ木の別の場所で見つけました。また、風媒花であることも雄花の垂れ下がった姿で理解しました。
- ③ オオムラサキの花は、アゲハチョウに花粉を運ばせる花の仕組みになっているのに、たくさんのクマバチやミツバチなどがもぐりこみ、蜜を集めている姿がほとんどでした。「これでは花粉が運ばれない」と参加者。
- ④ クロマツは雄花と雌花を観て、樹齢をみんなで数えました。
- ⑤ トチノキ、ベニバナトチノキで両性花と雄花があることを話し、参加者は両性花を探しましたが、雄花の中に退化しためしべを見つけただけでした。

参加者の感想：

- ・ハクウンボク、トチノキ、ベニバナトチノキの花が観られて良かった。
- ・これから自分の庭の木の花もしっかりと観たい。
- ・5月は白い花が多かった。
- ・いつもは下ばかり観て観察していたが、上を観るのもいい。
- ・期待以上におもしろかった等、たくさんの嬉しい感想をいただきました。